

## 情勢報告

## 勉強会でモチベーションアップ！第 8 回「土佐あき新施設園芸システム勉強会」の開催



生育調査結果を基に生育状況を熱心に説明する生産者（右端）

5月25、26日に「土佐あき新施設園芸システム勉強会」主催で民間アドバイザーを招いて勉強会（JA土佐あき本所、生産者42人参加）及び現地検討会（安芸・赤野・芸西の計5カ所）が開催されました。

農業改良普及課は勉強会において、オランダ園芸を参考にした日射量に応じた平均温度管理や灌水管理の考え方とその目安を提案し、生産者自らの検証を呼び掛けました。生産者から「データファイルをもらってやってみる」という声がありました。翌日の現地検討会では「次作は内張の巻上げ、CO<sub>2</sub>局所施用、密植、日射量に基づいた灌水管理に取り組み、さらなる収量アップを目指します」など熱い話が飛び交い、これまでの成果と自信が感じられました。

## 安芸ブロックと安芸集出荷場の園芸研究会ナス部会が合同で次作に向けて勉強！



土壌消毒について説明する普及指導員

6月8日に安芸集出荷場で安芸ブロック園芸研究会ナス部会と安芸集出荷場園芸研究会ナス部会が合同で勉強会を開催し、部員21人が参加しました。

農業改良普及課からは28園芸年度に向けた病害対策や環境制御機器等の情報提供をしました。また、資材メーカーからは肥料や農薬、日射比例灌水について紹介がありました。天候不順により27園芸年度は例年より病害が多発したため、生産者からは病害残渣の処理・土壌消毒方法などについて熱心に質問がありました。

農業改良普及課は、今後も現地検討会や勉強会での技術情報の提供等を通じて部会活動を支援します。

## 農業改良普及課内現地検討会の開催



ナスの状態について話し合う生産者と普及指導員

6月9日、農業改良普及課の野菜担当の普及指導員14人が環境制御技術の実証ほや県育成品種の現状を共有するため、室戸市吉良川町から芸西村まで9か所のは場巡回を行いました。

各地域担当の職員及び生産者と意見交換することで管理方法や今後の課題などを共有できました。また、県育成品種（土佐鷹、慎太郎）は春からも品質が良いことが確認でき、今後も普及に取り組んでいくことで意見が一致しました。

農業改良普及課は引き続き生産者の所得向上のために環境制御技術と県育成品種の普及を推進していきます。

## 情勢報告

## 今回は抜き打ちだ！管内 10 集出荷場の衛生点検を実施



検査員も着帽するのは当たり前

5月27日、27園芸年度4回目となる管内10集出荷場の衛生点検をJA、園芸連と農業改良普及課の職員11人が2班に分かれて行いました。

「服装」や「出荷場内の整理・整頓」「作業環境」など23項目について巡回・点検しましたが、今回は、職員の帽子のかぶり方が浅い出荷場が多く見られ、「何のために着帽するのか」がやや薄れてきていること、また、荷受け口でのゴミのポイ捨てが見られ、農家、職員ともに反省する結果となりました。点検結果は、各集出荷場へ通知され、改善計画を作成することになります。

農業改良普及課は、農産物の品質向上への取り組みとして衛生点検活動を引き続き支援します。

## 芸西小学校でハスモンヨトウ捕獲トラップ製作の出前授業を開催



積極的に授業に参加する小学生

6月11日、農業改良普及課は営農指導員1人、芸西村の青年農業士5人と協力し、芸西小学校3年生40人を対象にハスモンヨトウ捕獲トラップ製作をするための出前授業を開催しました。

農業改良普及課は地元の施設ナス・ピーマンの生産量、天敵、ハスモンヨトウの被害、捕獲方法等について講義しました。「ナスもピーマンもこんなにいっぱいとれゆうとは知らなかった」「虫にも（野菜にとって）悪い奴だけじゃなく、いい奴もおるんやね」と、小学生に施設野菜、天敵への関心を持ってもらうことができました。

農業改良普及課は今後も青年農業士と合同でトラップの製作、設置、回収等の作業を行い、小学生の農業への関心を高めていきます。

## JA土佐あきまるとサミット大盛況！



生産者が出前授業 環境保全型農業をPR！

6月20日、高知家まるとと東部博の一環で、JA土佐あきの取り組む環境保全型農業や農産物のPRとファンづくりを目的に、『JA土佐あきまるととサミット』が安芸市営球場屋内練習場（安芸ドーム）で開催され、約2,500人の来場がありました。

農業改良普及課は、出前授業のスライド作成と当日の運営、収穫体験ツアーの支援、ドーム内に特設したハウス内での環境保全型農業や土佐鷹の紹介、親子なす料理教室の講師などを務めました。

普段接することのない一般消費者や小学生に、直接環境保全型農業の取り組みや県育成品種を直接PRすることが出来、大変意義のある催し物となりました。

今後も農業改良普及課では、環境保全型農業と県育成品種を積極的にPRしていきます。

## 情勢報告

## 柚子部北川支部で勉強会の開催



栽培管理や農薬の使用方法について  
真剣に関心する生産者

6月11日、JA土佐あき柚子部北川支部の部員を対象に北川支所で栽培勉強会が開催され、19人の参加がありました。

農業改良普及課は、梅雨期～夏期にかけての栽培管理のポイントや、今後注意が必要な害虫等について説明しました。また、農薬メーカーの担当者からは、柚子栽培で主に使用する薬剤及び新規登録薬剤の効能や使用上の注意点について説明がありました。その後の意見交換では、農薬の使用方法や散布時のポイント等について盛んに質問や情報交換が行われました。

農業改良普及課は今後もJA等と連携し、生産者の生産・経営安定のために、栽培技術指導を継続的に実施していきます。

## 第3回総会を開催！～奈半利町 集落保全営農組織平・花田～



今後の推進方向について協議する組合員

5月24日に集落保全営農組織平・花田が第3回総会を奈半利町の平集会所で開催し、組合員11人が参加しました。

農業改良普及課は、26年度の事業報告・収支決算、27年度の事業計画・収支予算案の作成支援を行いました。

組合長からは「これまでの取組で組織の改善すべき部分が見えてきた」との話があり、組合員で組織の課題、今後の推進方向を共有しました。

農業改良普及課は、組織員の意識や合意を確認しながら、役員会の定期的な開催や適正な組織運営ができるよう支援します。

## 東洋町に農業生産法人ができました！



「安心して食べれる野菜作りを心がけます」

4月17日、東洋町に農業生産法人「(株)熊谷ファーム」が設立されました。この法人は、特別栽培農産物（ナス）の生産を行っています。さらに、本年度中にジビエ肉等の加工・販売、プロ猟師の人材派遣等に取り組む予定です。

これまで農業改良普及課室戸支所は、「(株)熊谷ファーム」に、特別栽培農産物に関する技術支援や販路拡大のための商談会や雇用確保の支援策の紹介等を行ってきました。今後も環境制御技術や事業等の情報を提供していきます。